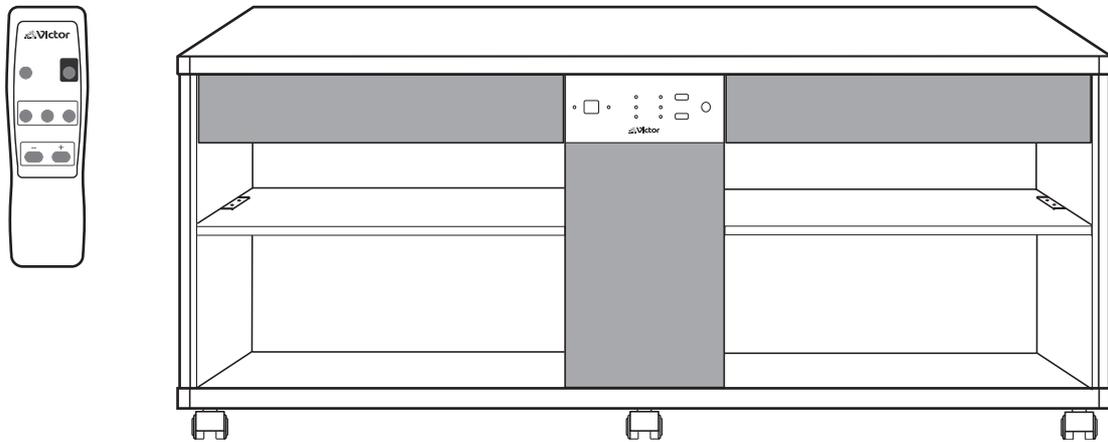
取扱説明書 /保証書

ラックシアター

型名 RK-AV1

システム構成：SP-RKAV1W SP-RKAV1F

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

特に*2*〜*5*ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは大切に保管し、必要なときにお読みください。

転倒・落下防止対策について

地震等でのテレビの転倒・落下によるけがなどの危害を軽減するために、転倒・落下防止対策を行なってください(くわしくは*14*ページを参照ください)。

ユーザー登録のお願い

●下記アドレスのホームページより、ご登録ください。

http://www.victor.co.jp/reg/

お買い上げいただきました製品のユーザー登録をお願いいたします。ご登録いただきますと製品のサポート情報、ビクター新製品やイベント情報の提供サービスなどをご利用いただけます。また、今後のより良い製品開発のためのアンケートにもご協力をお願いいたします。

LVT1687-001A

もくじ

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

- この表示の注意文を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

- この表示の注意文を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

● 絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意　感電

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止　水場での使用禁止　接触禁止

行為を指示する記号

一般的指示　電源プラグを抜く

⚠ 警告

電源プラグを抜く

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

- ● 煙が出ていたり、へんなにおいがするとき
- ● 内部に水や異物が入ってしまったとき
- ● 落としたり、破損したとき
- ● 電源コードが傷んだとき(芯線の露出や断線など)

すぐに電源を「**切**」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解禁止

分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

水場での使用禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本製品の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

⚠ 警告

電源プラグが容易に抜き差しできる空間を設ける。

本製品は電源プラグの抜き差しで、主電源が「**入**」／「**切**」します。本製品を設置するときは、できるだけコンセントの近くに設置してください。

本製品の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。
特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取ってください。

本製品の上に水などの入った容器を置かない。

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

交流100V（ボルト）以外の電源電圧で使用しない。

火災の原因となります。
本製品を使用できるのは日本国内のみです。
This set is designed for use only in Japan and cannot be used in any other country.

本製品の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

本製品の上に火のついたローソクのような裸火を置かない。

火災の原因となります。

⚠ 注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

⚠ 注意

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置するときは、壁などから10cm以上離す

置き場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや、熱器具の近くなど高温になるところ
- 窓際など水滴の発生しやすいところ
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるところ
- 不安定なところ
- 振動の激しいところ

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、1～2時間待ってから電源を入れてください。

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。

バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「**切**」でも本製品には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグを抜いてください。

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「**切**」でも本製品には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

接続の前に接続する全ての機器の電源を「切」にしておく(電気プラグをコンセントから抜いておく)。

電源が「**入**」の状態で接続すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となることがあります。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(＋)とマイナス(－)を間違えない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく
- 電池の廃棄による環境への影響に注意をはらう

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

⚠ 注意

ガラス棚板を傷つけたり、衝撃をあたえない。

ガラスは強化ガラスを使用していますが、使い方を誤ると割れる恐れがあり、けがの原因となることがあります。
鋭利なものや、尖ったものなどで傷をつけないでください。
強化ガラスは、傷が入った状態で長時間ご使用になりますと、傷が進行して自然に破損することがあります。
傷が入った場合は、お買い上げの販売店にご相談の上、新しいガラスと交換してください。

組み立ては二人以上で行なう。

組み立ては必ず二人以上で行なってください。天板部や地板部は非常に重いので、けがや腰痛の原因となることがあります。
指などをはさまないようにしてください。部品と部品の間に指や手をはさんで傷つけることがあります。
ねじ止めの箇所は、しっかりと締めてください。不十分な組み立てかたをすると、強度が保てず、機器が倒れたりして、故障やけがの原因になることがあります。

本製品を移動させる場合は、以下のことに注意する。

- スピーカー・サブウーハーのサランネットに手をかけないでください。故障やけがの原因となることがあります。
- 接続している機器の電源スイッチを切り、スピーカーコードや接続コードをはずしてから移動させてください。落下や転倒など思わぬ事故の原因となることがあります。

ガラス棚に足をかけてのぼらない。

ガラス棚に足をかけてのぼらないでください。ガラスが割れてけがの原因となることがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。

据え付けたあとは転倒の防止をする。

不意の地震や衝撃等により、この製品の上に載せたテレビなどが倒れてけがをする恐れがあります。転倒防止策を実施ください。

再生中に異音が出た場合や、電源を切る前は音量レベルを下げる。

大音量で再生中に万一異音が出た場合は、音量レベルを下げてください。そのまま使用すると、スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。また、電源を切る前には、音量レベルを必ず最小にしてください。電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

長時間、音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

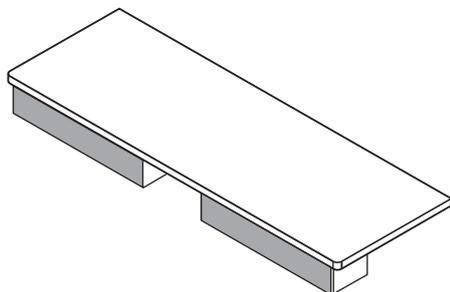
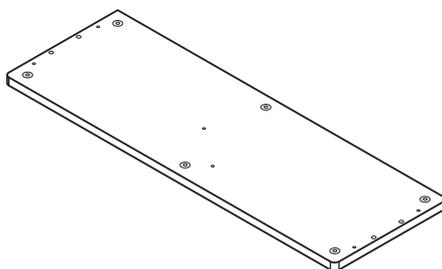
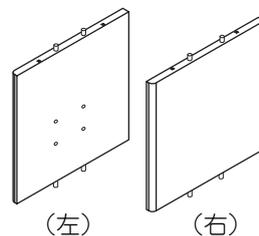
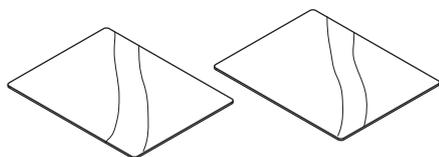
本製品の上に乗らない。磁気を使用した製品を近づけない。

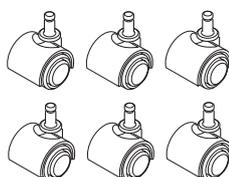
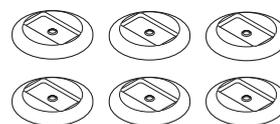
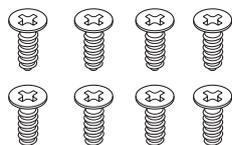
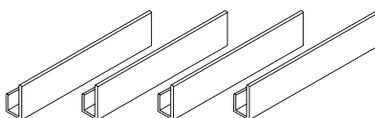
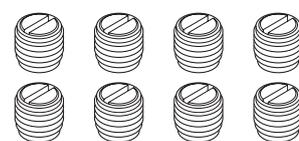
本製品の上に乗ったり座ったり、踏み台のかわりに使用しないでください。特に小さなお子様にはご注意ください。また、天板には60kg、上段のガラス棚には左右各10kg、下段の棚には左右各20kgを超えるものを載せないでください。破損や故障の原因となることがあります。
キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品をスピーカー部に近づけないでください。スピーカーの磁気の影響で使えなくなったり、データが消失することがあります。

欧州連合のリサイクルマークです。

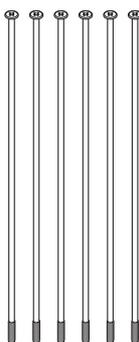
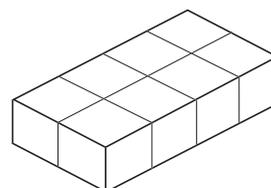
部品と付属品

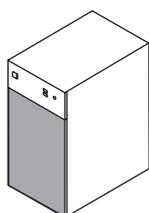
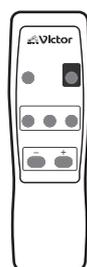
組み立てる前に下記の部品と付属品がそろっていることをお確かめください。不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
[ ] 内の数字は数量を表しています。

天板(左右フロントスピーカー装着済み)[1]

地板[1]

側板[2]

ガラス棚板[2]

ガラス棚板には、安全のために飛散防止フィルムが貼られています。

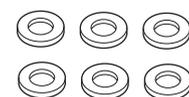
キャスター[6]

キャスター用受け皿[6]

ガラス棚板固定金具用ねじ[8]
(M4 X 20mm)

ガラス棚板固定金具[4]

ガラス棚板固定ねじ[8]

ガラス棚板固定ねじ用工具[1]

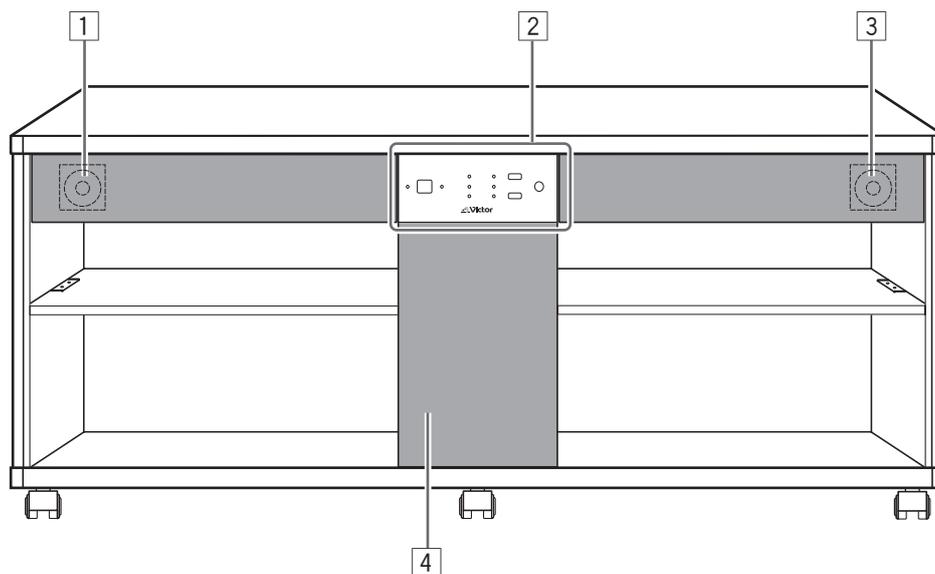
オーディオコード[1]

長ねじ[6]
(M6 X 430mm)

スペーサー[1シート(8個分)]

お手持ちの機器をガラス棚に設置した際に、固定金具が機器に当たるときにご使用ください。
シートの切れ目に沿って切り分けてご使用ください。

サブウーハー[1]

リモコン[1]

単4形乾電池[2]
リモコン動作確認用

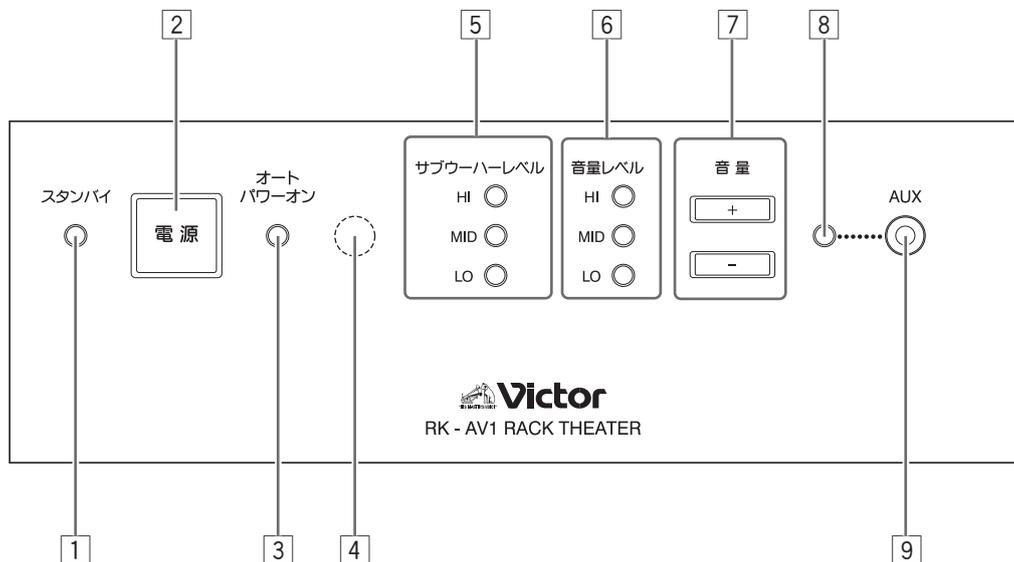
スプリングワッシャー(長ねじ用)[6]

平ワッシャー(長ねじ用)[6]

各部の名称

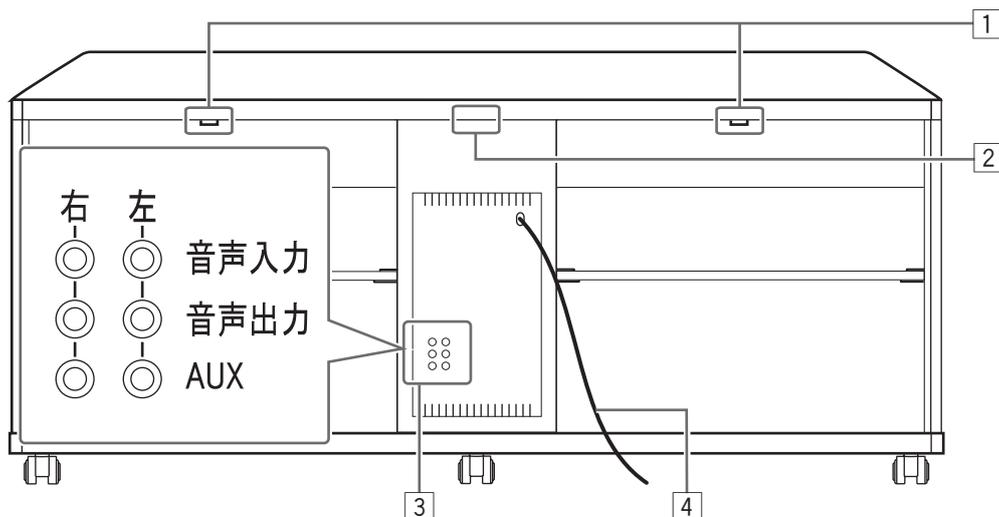
本体(前面)

1 フロントスピーカー(左)
2 操作/表示部
3 フロントスピーカー(右)
4 サブウーハー

ご注意

左右フロントスピーカー、サブウーハーのサランネットは取りはずしできません。

本体(操作/表示部)

1 スタンバイランプ(➡***16***、***17***ページ)
2 電源ボタン(➡***17***ページ)
3 オートパワーオンランプ(➡***17***ページ)
4 リモコン受光部(➡***8***ページ)
5 サブウーハーレベルランプ(➡***17***ページ)
6 音量レベルランプ(➡***17***ページ)
7 音量(+/−)ボタン(➡***17***ページ)
8 AUX(エーユーエックス)ランプ(➡***17***ページ)
9 AUX(エーユーエックス)端子(➡***16***ページ)

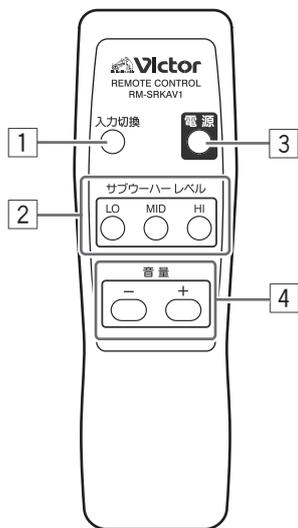
各部の名称(つづき)

本体(後面)

1 **テレビ転倒防止用ひも取り付け金具**
(➡*14* ページ)

2 **テレビ固定バンド用ねじ穴**
(➡*14* ページ)
ねじ穴は天板裏に3つあります。

3 **音声入力、音声出力、AUX(エーユーエックス)端子**
(➡*15* ページ)

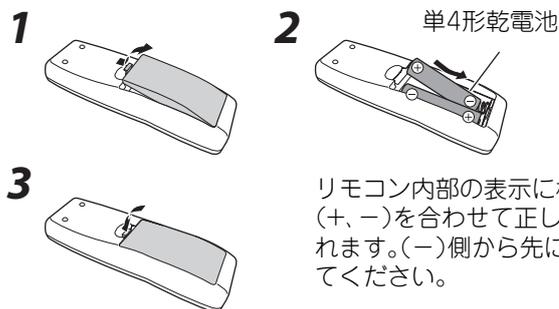
4 **電源コード(➡*16* ページ)**
家庭用のコンセント(交流 100V)に接続します。

リモコン(RM-SRKAV1)

1 **入力切換ボタン(➡*17* ページ)**

2 **サブウーハーレベル(LO(ロー)、MID(ミッド)、HI(ハイ))ボタン**
(➡*17* ページ)

3 **電源ボタン(➡*17* ページ)**

4 **音量(+/−)ボタン(➡*17* ページ)**

リモコンに乾電池を入れる

リモコン内部の表示に極性(+、−)を合わせて正しく入れます。(−)側から先に入れてください。

ご注意

- 付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。
- スプリングや乾電池の破損防止のため、乾電池は必ず上の図のようにマイナス側から入れてください。乾電池が傷つくと、ショートして発熱の原因となります。リモコンが熱くなったときは、中の乾電池を直接手でさわらず、ドライバーなどを使って取り出してください。
- 乾電池は「**電池の取り扱いに注意する**(➡***4*** ページ)」をお読みの上、正しくお取り扱いください。

リモコンの操作

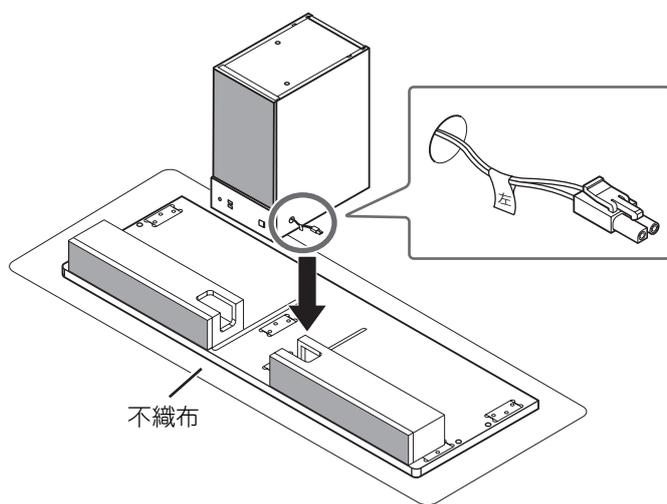
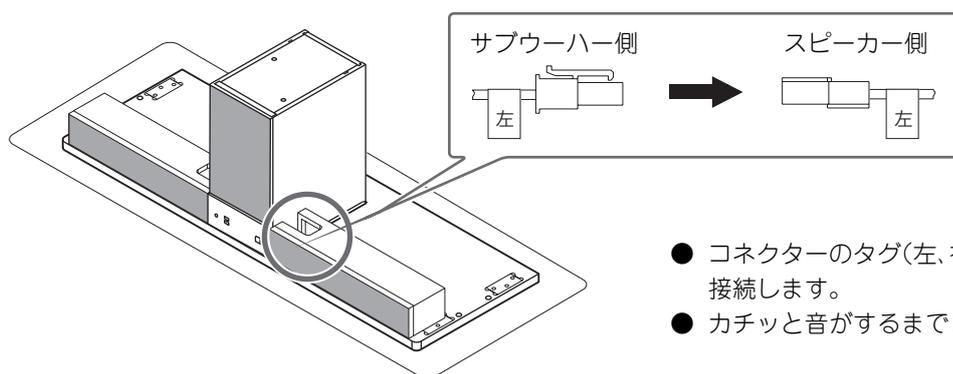
- リモコンを使うときは、本体正面に向けて操作してください。
- 操作が可能な距離は本体のリモコン受光部から約7m以内です。
- 操作範囲が狭くなったり、本体に近づけないと操作できなくなったときは、新しい乾電池と交換してください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えないでください。

組み立て

組み立てるときのご注意

- 本製品を組み立てる際には、指などをはさまないように十分にご注意ください。
- ねじ止めの箇所は、しっかりと止めてください。不十分な組み立て方をすると強度が保てず、機器が倒れたりして故障やけがの原因になることがあります。
- ガラスは強化ガラスを使用していますが、とがったものを落としたりぶつけたりすると、割れることがありますのでご注意ください。
- 移動させる場合は、フロントスピーカーやサブウーハーのサランネットに手をかけないでください。サランネットが破損するおそれがあります。
- 天板や地板は重いので、安全のため組み立ては必ず二人以上で行なってください。
- 組み立てはカーペットや毛布などの上で行ない、製品や床に傷をつけないようにご注意ください。
- 組み立ては下記の手順のとおり、天板を下にして行なってください。
- 組み立てには、プラスドライバーをご使用ください。

組み立ての手順

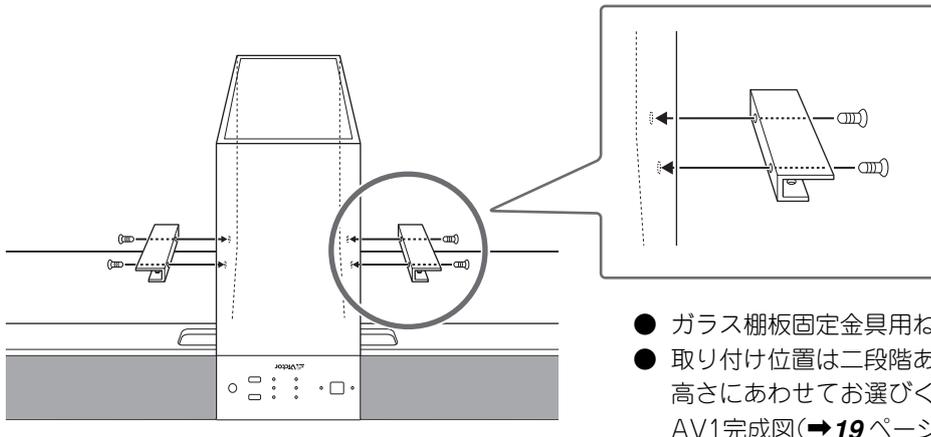
1. サブウーハーを天板に取り付け、スピーカーとサブウーハーを接続する。

- コネクターの左右を確認して、左図のようにコネクターをサブウーハー側面の丸い穴から出してください。
- サブウーハーの操作／表示部を下にして、天板の溝に沿って取り付けます。サブウーハーが止まるまで、スピーカー側に押してください。

- コネクターのタグ(左、右)が同じであることを確認し、接続します。
- カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。

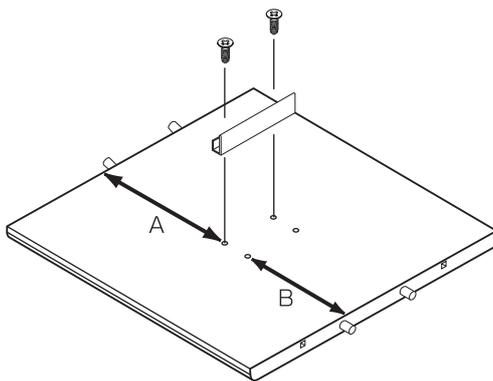
ご注意

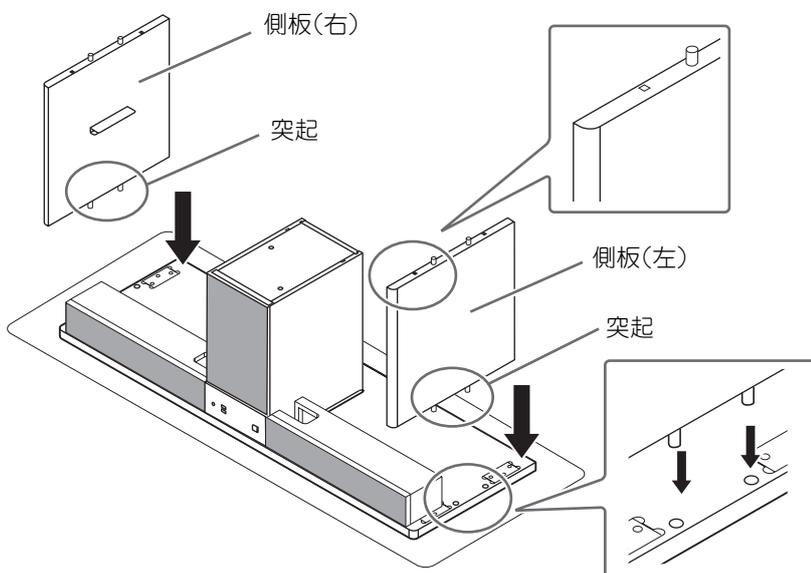
- 本製品や床に傷をつけないために、天板を包んでいる白い布(不織布)を下に敷いて組み立てを行なってください。
- 取り付けの際、スピーカーコードをサブウーハーにはさまないようにご注意ください。
- 天板やサブウーハーを持ち上げるとき、サランネットに手をかけないようにご注意ください。

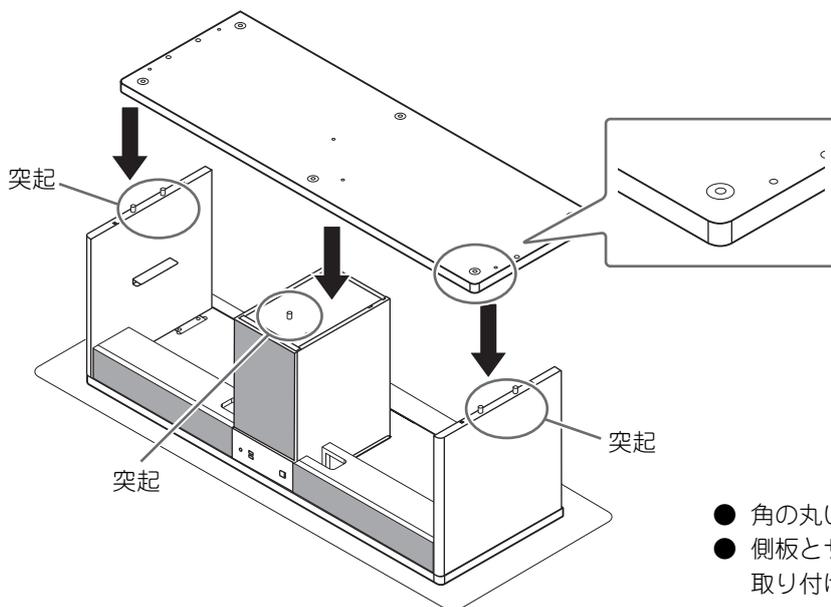
次ページに続く

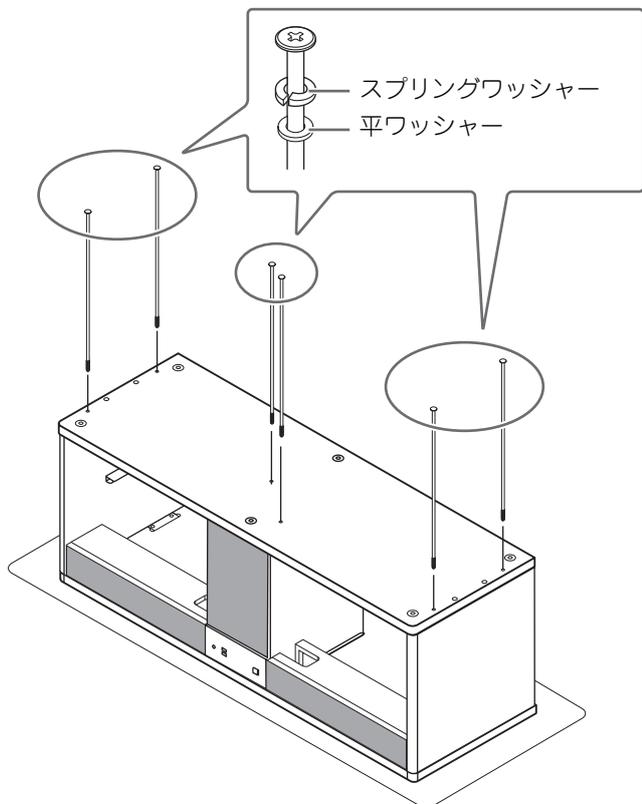
組み立て(つづき)

2. ガラス棚板固定金具をサブウーハーの両側に取り付ける。

- ガラス棚板固定金具用ねじで取り付けます。
- 取り付け位置は二段階あります。本製品に設置する機器の高さにあわせてお選びください。ガラス棚の高さは、「RK-AV1完成図(➡**19** ページ)」を参照ください。
- 固定金具は、完成時にねじ穴のある方が上になるように取り付けてください。

3. ガラス棚板固定金具を側板に取り付ける。

- 側板を倒して、ガラス棚板固定金具用ねじで取り付けます。
- 取り付け位置は二段階あります。サブウーハーに取り付けた固定金具と、高さをそろえて取り付けてください。
- ねじ穴から端までの距離が長い方(左図中A)が、完成時に上になります。
- 固定金具は、完成時にねじ穴のある方が上になるように取り付けてください。

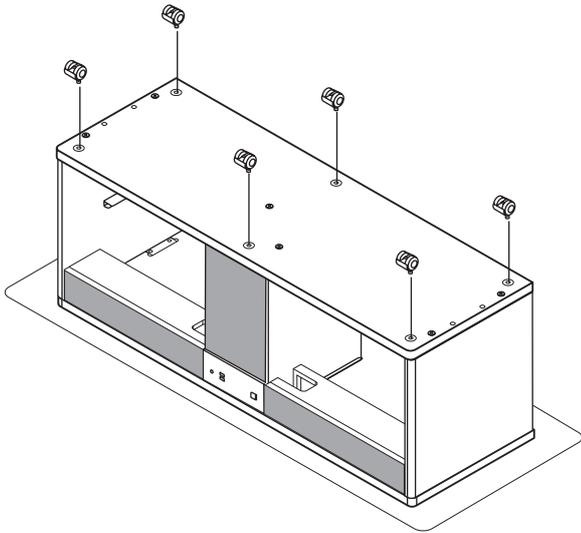
4. 側板を天板に取り付ける。

- 角の丸い方が前面になります。
- 側板の突起を天板の穴に合わせて取り付けます。

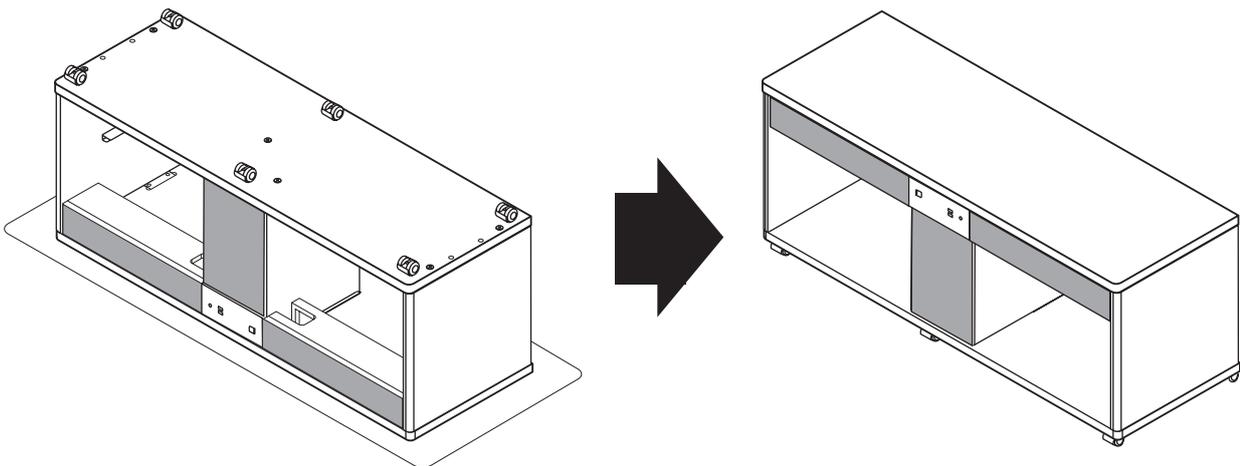
5. 地板を側板、サブウーハーに取り付ける。

● 角の丸い方が前面になります。
● 側板とサブウーハーの突起を地板の穴に合わせて取り付けます。

6. 地板を長ねじで固定する。

● 左図のように、スプリングワッシャーと平ワッシャーを長ねじに通してから、長ねじを締めてください。
● サブウーハーを最初に長ねじで固定すると安定します。
● 地板と側板がはずれないように、奥までしっかりと締めてください。

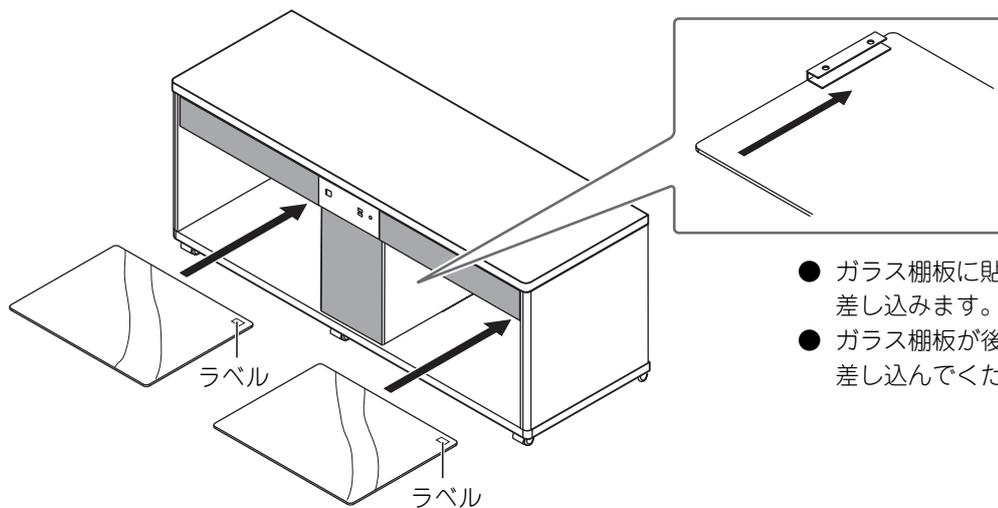
次ページに続く

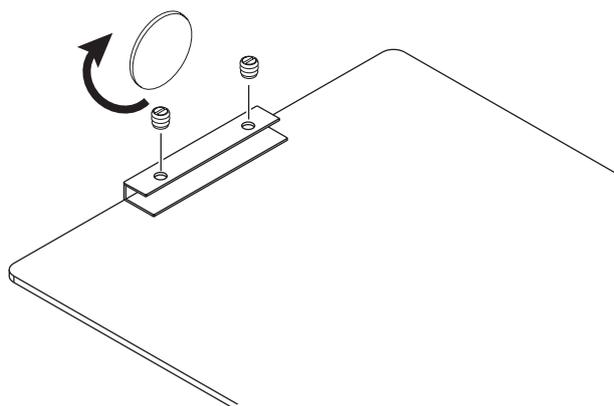
組み立て(つづき)

7. キャスターを地板に取り付ける。

- カチッと音がするまで、しっかりと差し込みます。
- 6個全てを取り付けてください。

8. スピーカーが上になるように、ゆっくりと裏がえす。

ご注意

- 本製品は重いので、必ず二人以上で行なってください。
- 指などをはさまないようにご注意ください。
- フロントスピーカーやサブウーハーのサランネットに手をかけないようにご注意ください。
- 裏がえす際、電源コードを引っ掛けないようにご注意ください。

9. ガラス棚板固定金具に沿って、ガラス棚板をゆっくり差し込む。

- ガラス棚板に貼ってあるラベルを上にして差し込みます。
- ガラス棚板が後面からはみ出さないように差し込んでください。

10. ガラス棚板固定ねじを、ガラス棚板固定金具に取り付ける。

- ガラス棚板を差し込んだ後、付属のガラス棚板固定ねじ用工具で、ガラス棚板固定ねじをガラス棚板固定金具に取り付けます。
- ねじを取り付けた後ガラス棚板を軽く引き、ガラス棚板がしっかり固定されているか確認してください。

ご注意

- ガラス棚板が割れる恐れがありますので、ねじをきつく締めすぎないようにご注意ください。

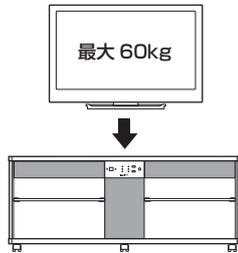
設 置

設置について

- **本製品が動いたり、倒れたりしてけがをする場合があるので、付属の受け皿を使ってキャスターを固定してください。**
- 本製品にテレビやDVDレコーダーなどを設置・接続するときは、作業のために十分な場所を確保してください。
- 本製品を部屋に設置するときは、後面と壁の間に10cm以上のすきまをあけてください。
- 設置は不安定な場所を避け、壁際で安定した場所に設置してください。

テレビの設置について

- 天板には60kgを超える機器は置かないでください。
- 設置作業は二人以上で行ない、指をはさんだり腰を痛めたりしないようにしてください。

1. ご使用になるテレビを、本製品の天板の中央に置いてください。
2. テレビを置く位置を調節するときは、テレビを持ち上げてください。引きずると天板を傷つけることがあります。

ご注意

テレビの底面や台座が本製品の天板よりはみ出すなど、片寄った設置のしかたをしないようにしてください。倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

お知らせ

テレビのゴム足などの跡が天面に残ることがあります。あらかじめご承知おきください。

収納機器の設置について

上段のガラス棚板には左右各10kg、下段の棚には左右各20kgを超える機器は設置しないでください。
ガラス棚に設置した機器がガラス棚板固定金具に当たるときは、付属のスペーサーをご使用ください。

ご注意

内部に熱がこもり、機器の故障や火災の原因となりますので、各機器の放熱を妨げないようにしてください。各機器の取扱説明書をよくお読みいただき、機器の天面や背面から十分なすきまをあけてください。

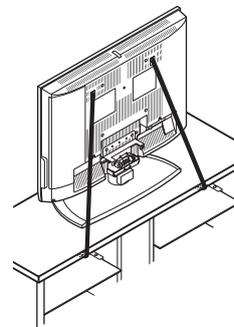
転倒・落下防止について

ご使用になるテレビに合わせて、本体後面の「テレビ転倒防止用ひも取り付け金具（➡8ページ）」および「テレビ固定バンド用ねじ穴（➡8ページ）」をお使いください。

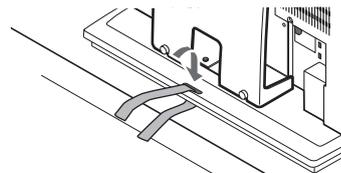
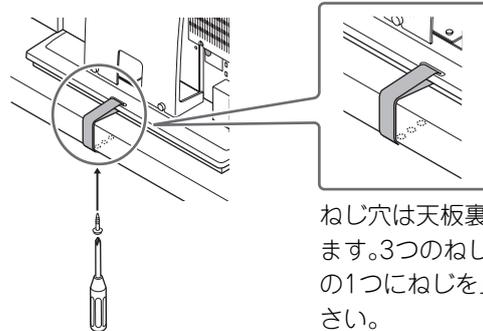
お知らせ

転倒・落下防止器具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒・落下防止効果が大幅に減少します。その場合は適当な補強を施してください。
また、転倒・落下防止対策は、けがなどの危害の軽減を意図したものですが、全ての地震に対してその効果を保証するものではありません。

テレビ転倒防止用ひも取り付け金具を使用する場合

金具に丈夫なひもなどを取り付け、下図のようにテレビ本体とつないでください。取り付けるときは、テレビの取扱説明書も参照ください。

テレビ固定バンド用ねじ穴を使用する場合

以下の手順でテレビ本体を取り付けてください。固定用バンド、ねじはテレビに付属のものか市販のものをお使いください。取り付けるときは、テレビの取扱説明書も参照ください。

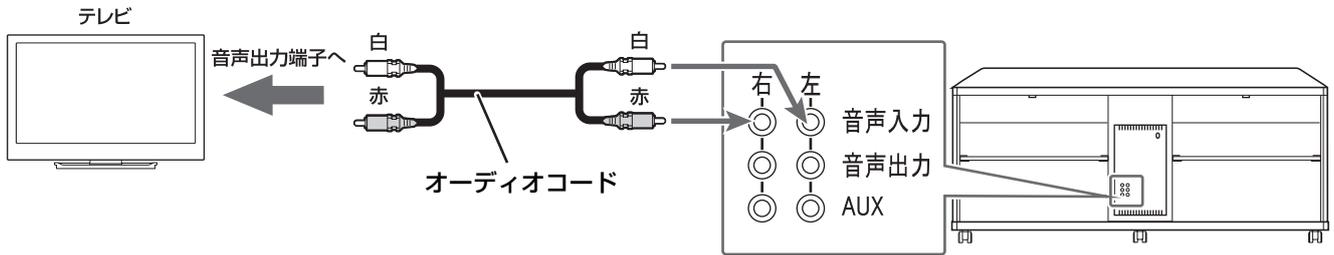
1. テレビ本体スタンド後面にあるバンド用の穴に、固定用バンドを通す。

2. 固定用バンドの長さをそろえ、ドライバーを使ってねじで本製品に固定する。

ねじ穴は天板裏に3つあります。3つのねじ穴のうちの1つにねじを止めてください。

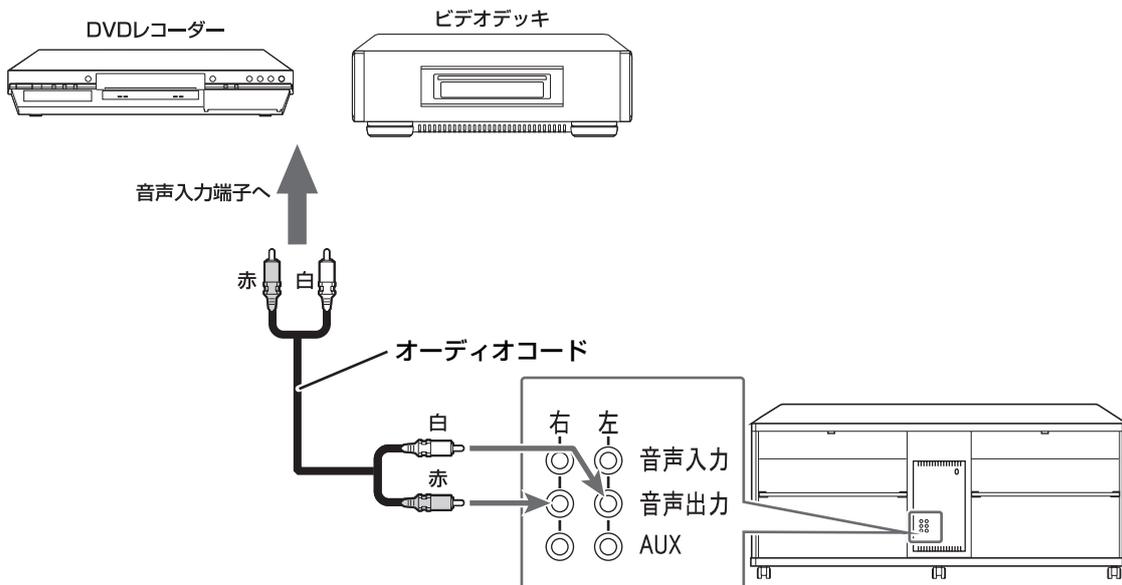
ご注意

天板の厚さ（25mm）よりも短いねじをご使用ください。

接 続 —接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。—

テレビを接続する

テレビからの音声を、本製品のスピーカーやサブウーハーから出力します。接続の際には、テレビの取扱説明書も参照ください。
接続には、付属のコードをお使いください。

DVDレコーダーまたはビデオデッキを接続する

本製品の音声出力端子からは、「テレビを接続する」(上記)で接続したテレビからの音声信号がそのまま出力されます。テレビ番組を録画する際は、DVDレコーダー、ビデオデッキを音声出力端子に接続してください。
接続の際には、DVDレコーダー、ビデオデッキの取扱説明書も参照ください。
接続には、DVDレコーダー、ビデオデッキに付属のものか別売りのコードをお使いください。

お知らせ

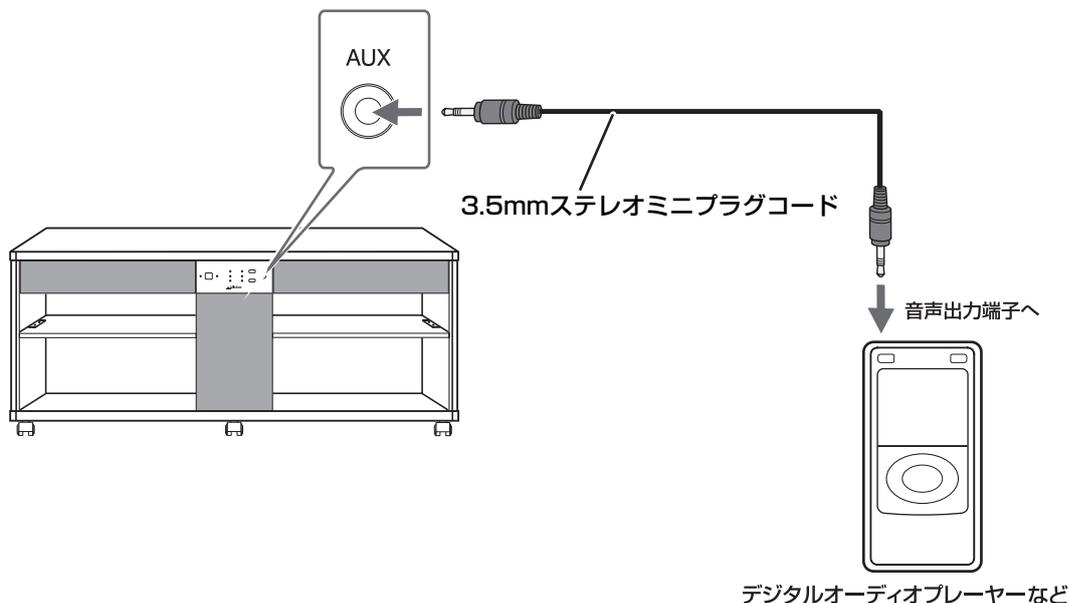
● DVDレコーダー、ビデオデッキの映像入力および出力は、テレビに直接接続してください。

AUX端子に機器を接続する

本体後面のAUX端子に機器を接続する

CDプレーヤーなどを接続します。接続する機器の取扱説明書も参照ください。
接続には、機器に付属のものか別売りのコードをお使いください。

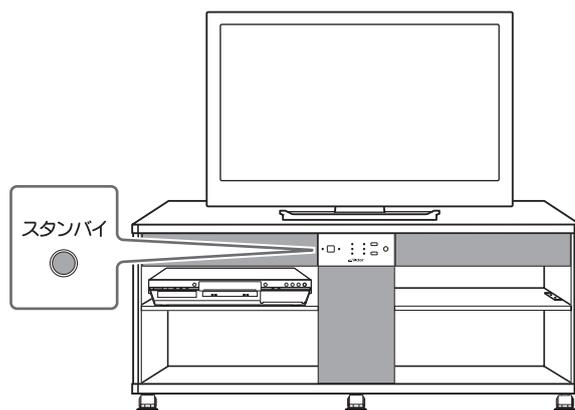
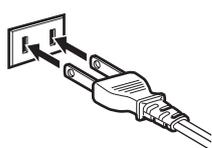
本体前面のAUX端子に機器を接続する

デジタルオーディオプレーヤーなどを接続します。接続する機器の取扱説明書も参照ください。
接続には、機器に付属のものか別売りのコードをお使いください。

お知らせ

- AUX端子に接続された機器を使用するときは、本製品の入力を「AUX」に切り換えてください(➡***17***ページ)。
- 前面のAUX端子に機器が接続されているときは、後面のAUX端子に接続されている機器は使用できません。後面に接続されている機器を使用するときは、前面に接続されている機器を取りはずしてください。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

電源コードを接続すると、スタンバイランプが点灯します。

ご注意

- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

お知らせ

音量レベルなどの設定は、次のような場合にお買い上げ時の設定に戻ります。

- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

お買い上げ時の設定は以下の通りです。

- 音量レベル(➡***17***ページ):8
- サブウーハーレベル(➡***17***ページ):MID
- 入力(➡***17***ページ):**音声入力**

操 作

本書は、おもにリモコンのボタンを使って操作説明をしています。本体に同じ名前やマークのボタンがある場合には、本体のボタンもお使いいただけます。

電源を入れる／切る

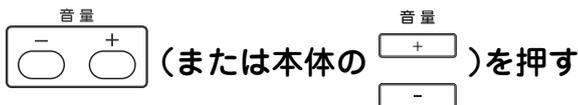
（または本体の

）を押す

電源が「**入**」になると操作／表示部のスタンバイランプが消えます。また、現在選択されているレベルに応じて、サブウーハーレベルランプ、音量レベルランプも点灯します。

音量を調節する

（または本体の

）を押す

本製品の音量レベルは、0～30、MAXの32段階の範囲で調節できます。操作／表示部の音量レベルランプで、音量レベルが確認できます。現在の音量レベルに応じて、おおよそ以下のように音量レベルランプが点灯します。

音量レベル: 0～7のとき
ランプは点灯しません。

音量レベル: 8～15のとき
LOランプが点灯します。

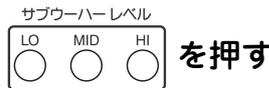
音量レベル: 16～23のとき
LO、MIDランプが点灯します。

音量レベル: 24～MAXのとき
LO、MID、HIランプが点灯します。

お知らせ

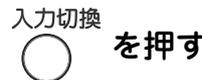
本製品のリモコンで、テレビ側の操作はできません。

サブウーハーレベルを調節する

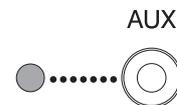
サブウーハーレベル
LO MID HI
を押す

選択したサブウーハーレベルに応じて、操作／表示部のサブウーハーレベルランプが点灯します。

LO	MIDでは出力レベルが大きすぎるときに選びます。
MID	通常はこのレベルでお使いください（お買い上げ時の設定）。
HI	MIDでは出力レベルが小さすぎるときに選びます。

入力を切り換える

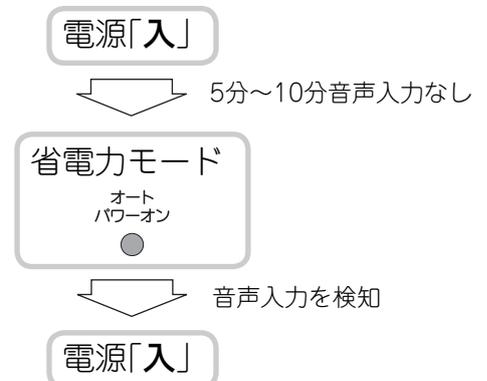
を押す

押すごとに次のように入力が切り換わります。

音声入力 ⟷ AUX

AUXが選択されているときは、操作／表示部のAUXランプ（AUX端子の左）が点灯します。

ご注意

入力を切り換える前には音量レベルを下げてください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

オートパワーオン機能を使う

本製品は電源が「**入**」のとき、約5分～10分音声の入力がないと、自動的に省電力モードに入り、操作／表示部のオートパワーオンランプが点灯します。このとき、一定レベル以上の音声入力があると、本製品の省電力モードが解除されます。

お知らせ

オートパワーオン機能が働いているときに電源ボタンを押すと、本製品の電源が「**切**」になります。

使用上のご注意

置き場所について

故障などを防止するために、次のような場所には置かないでください。

・湿気やほこりの多い所
・バランスの悪い不安定な所
・熱器具の近く
・OA機器や蛍光灯のすぐそば
・風通しの悪い狭い場所
・直射日光の当たる所
・極端に寒い所
・振動の激しい所
・磁気を発生する所

ご注意

本製品の使用環境温度は、5℃～35℃です。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となることがあります。

本体の掃除

キャビネットや操作/表示部が汚れたら、柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは水で布をしめらすか、中性洗剤を少し布に付けてふき、あとからからぶきしてください。

ご注意

シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めるなどお互いに気を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

スピーカーの防磁処理について

本製品は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステム<防磁設計(JEITA)>ですが、設置のしかたによっては、色むらが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの主電源を切り、30分後に再びスイッチを入れれば、画面への影響が改善されます。(主電源スイッチを再度入れるときは、テレビの自己消磁回路を働かせるため、切ってから30分お待ちください。)防磁形(JEITA)とは、(社)電子情報技術産業協会の技術基準に適合したスピーカーです。
それでも色むらが残るときは、テレビの位置を変えてみてください。近くに磁石等の磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビ画面に色むらが生じることがありますので設置にご注意ください。

故障かな?と思う前に

修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス(➡ **21** ページ)」をお読みの上、修理を依頼してください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから外れている。	電源プラグをコンセントに差し込む。
音が出ない。	音量が0になっている。	音量レベルを調節する。(➡ **17** ページ)
	スピーカーコネクターが外れている。	接続を確認する。(➡ **9** ページ)
	入力が切り換わっている。	希望する入力に切り換える。(➡ **17** ページ)
	前側のAUX端子に機器が接続されている。	機器を取り外す。
リモコンが働かない。	リモコンの電池が消耗している。	新しい乾電池(単4形)と交換する。(➡ **8** ページ)
	リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっている。	直射日光や照明器具等の強い光が当たらないようにする。

上記の処置をしても正しく動作しないときは‥‥
万一、雷や静電気などによる動作の異常が発生したときやボタン類を押してもうまく動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、しばらく待ってからつなぎ直してください。

主な仕様 ・本製品の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

■ **アンプ部**

実用最大出力(JEITA)
　フロントスピーカー：　14 W + 14 W
　　　　　　　　　　　(1 kHz, 10 %, 4 Ω)
　サブウーハー：　28 W(100 Hz, 10 %, 3 Ω)

入力感度／入力インピーダンス
　音声入力：　500 mV/20 kΩ
　AUX：　500 mV/20 kΩ

音声入力端子
　音声入力：　ピンジャック(左/右)×1
　AUX：
　　リア側　ピンジャック(左/右)×1
　　フロント側　3.5 mm ミニジャック×1
　　(AUX入力は前面側、後面側同時に使えません。機器が同時に接続されているときは、前面側の入力が自動的に選択されます。)

音声出力端子
　音声出力：　ピンジャック(左/右)×1

電源　AC 100 V(50/60 Hz共通)

消費電力
　電源「入」時：　60 W
　電源「スタンバイ(待機)」時：　0.6 W
　省電力モード時：　0.6 W

■ **スピーカー：** 防磁形(JEITA)

フロントスピーカー(SP-RKAV1F)

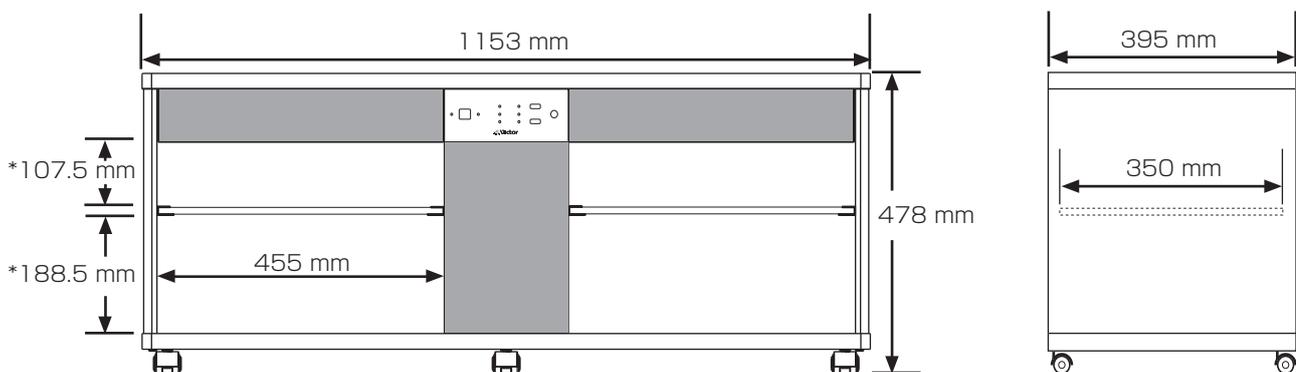
形式：　フルレンジ密閉型
使用スピーカー：　5 cm × 4 cmコーンスピーカー× 2
最大入力(JIS)：　15 W
定格インピーダンス：4 Ω
再生周波数帯域：　150 Hz〜20000 Hz

サブウーハー(SP-RKAV1W):

形式：　パッシブラジエター
使用スピーカー：　15.5 cmコーンスピーカー× 1
最大入力(JIS)：　30 W
定格インピーダンス：　3 Ω
クロスオーバー周波数：　200 Hz
再生周波数帯域：　30 Hz〜300 Hz

■ **総合**

最大外形寸法：
　幅 1153 mm × 高さ 478 mm × 奥行 395 mm
質量：　約 36 kg
収納部内寸法：　下図参照(左右とも同じ寸法です。)
天板部耐加重：　60 kg
収納部耐加重：　ガラス棚 左右各10 kg
　　　　　　　　底板 左右各20 kg

RK-AV1完成図

＊ガラス棚板を上側に設置した場合。下側に設置した場合は、上段が150 mm、下段が146 mmです。

イラストはイメージであり、実際の商品と形状が異なることがあります。

- JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定方法による数値です。
- 部品と付属品については6ページをご覧ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 25-2533	旭川市5条通17丁目1439番地1
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138) 52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田西2-3-20
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	奥州市水沢区天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
関東・甲信越			
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(027) 255-5982	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第2棟1F
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(028) 635-2938	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(029) 246-0590	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 202-0263	千葉市中央区中央三丁目9-16 三井生命千葉中央ビル1F
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.C.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 5748-3701	大田区池上二丁目8-10 プラムビル1F
	八王子 S.C.	(042) 646-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 5631-2235	墨田区八広五丁目11-1
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	海老名 S.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(055) 227-5773	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(025) 241-4003	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下下条2-1366-1
長野	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(026) 221-7607	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市駿河区中田本町62-31 中田ビル1F
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	北名古屋市九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(059) 352-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18
北陸			
富山	富山 S.S.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.S.	(0742) 35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市北区百舌鳥梅町3丁21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区浜辺通2丁目1-30三宮国際ビル1F
兵庫西部	姫路 S.S.	(079) 234-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	山口市小郡花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
島根	松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　1006

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
　　　　　　　　S.S.はサービスステーションの略称です。

保証とアフターサービス （必ずお読みください）

保証書	補修用性能部品の最低保有期間
所定事項記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。 保証期間はお買い上げの日より1年間です。	製造打ち切り後8年です。 補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

お客様にご記入いただいた保証書は、保証期間中、およびその後の点検サービス活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

この製品を使用したため、または使用できなかったためにいかなる損害が発生しても保証の範囲に入りません。

1. **保証期間中、取扱説明書および本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合は、無償修理をさせていただきます。**
   商品と本書をお買い上げの販売店にご持参ご提示のうえ、修理をご依頼ください。
2. **保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または20ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄のサービス窓口にご相談ください。**
3. **次のような場合は保証期間内でも有料修理にさせていただきます。**
   （1） 本書のご提示がない場合。
   （2） 本書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記載がない場合。
   （3） ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
   （4） お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障および損傷。
   （5） 火災、地震、風水害、雷その他の天災地変、虫害、塩害、公害ガス害(硫化ガスなど)や異常電圧、指定以外の使用電源(電圧・周波数)による故障および損傷。
   （6） 不具合の原因が本製品以外(外部要因)による場合。
   （7） 一般家庭用以外(例えば業務用等への長時間使用および車両、船舶への搭載)に使用された場合の故障および損傷。
   （8） 消耗品(内蔵充電池など)の消耗。
   （9） 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行なった場合は、出張に要する実費を申し受けます。
   （10）不注意、許可なしに行なった修正／改造、あるいは事前承諾を得ずに付加した部品が原因となって損傷が発生した場合。
4. **この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって日本ビクター(株)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。**
   保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または20ページのビクターサービス窓口にお問い合わせください。
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社（以下、当社）にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  ①上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  ②法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

保証書

品名	オーディオ商品	出張修理
型名	RK-AV1	製造番号
お客様 お名前	ふりがな 様	
お客様 ご住所	□□□-□□□□ 電話(　　)　　ー	
お買い上げ年月日 年　月　日	保証期間	お買い上げ日から 本体 1年間
お買い上げ店	住所・店名・電話	

お客様へのお願い:

1. 本書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名が記載されているかお確かめください。万一記入がない場合は直ちにお買い上げ販売店にお申し出ください。購入日の確認出来る書類(シールやレシート等)の添付でもかまいませんので、大切に保管してください。
2. 製造番号の記載が無い場合は、お手数ですがお買い上げ商品の製造番号をお確かめのうえ、記入をお願いします。
3. ご贈答品等で、本書記載のお買い上げ販売店に修理がご依頼になれない場合は、20ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄りのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。
4. ご転移の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
5. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。
転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 ビクターサービスエンジニアリング株式会社	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 お客様ご相談センター
20ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル **0120-2828-17** 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話　(045)450-8950 FAX　(045)450-2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

• ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについては、21ページをご覧ください。

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒 221-8528 横浜市神奈川区守屋町 3-12

1106NYMMDWFPI